

米国農務省穀物等需給報告(2024 年8月 12 日発表のポイント)

令和6年8月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、8月12日(現地時間)、2024/25年度の4回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

－2024/25年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓→は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 28億 3,028 万トン(対前年度比 0.8%増) ↓
- ② 消費量: 28億 3,705 万トン(対前年度比 0.7%増) ↓
- ③ 期末在庫量: 7億 6,995 万トン(対前年度比 0.9%減) ↓
期末在庫率: 27.1%(対前年度差 0.4ポイント減) ↓

【主な品目別の動向】

小麦: EU ではフランスで多雨による単収減により生産量が前月より引き下げられたものの、ウクライナで国家統計局のデータに基づく収穫面積の上方修正、カザフスタンでも豊富な降雨量と平年以上の生育状況に基づく単収増による上方修正、豪州でも上方修正されたことから、世界の生産量は前年度より増加する見通し。世界の消費量も前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を下回るため、前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 7億 9,828 万トン(対前年度比 1.1%増) ↑…米国、豪州、カザフスタン、インド、中国、カナダ、アルゼンチン等
で増加、ロシア、EU、英国等で減少(前月に比べウクライナ等で上方修正、EU 等で下方修正)
- 2 消費量: 8億 402 万トン(対前年度比 0.7%増) ↑…中国等で減少
- 3 期末在庫量: 2億 5,662 万トン(対前年度比 2.2%減) ↓…米国等で増加、EU、ロシア等で減少
期末在庫率: 31.9%(対前年度差 0.9ポイント減) ↓

とうもろこし: EU、セルビア、ロシアでは7月の欧州南東部及びロシア南部と北コーカサス地方における異常な高温乾燥、ウクライナでも7月の主要産地における高温乾燥により生産量が引き下げられたこと等から前月より下方修正され、世界の生産量は前年度より減少する見通し。世界の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 12億 1,982 万トン(対前年度比 0.3%減) ↓…ブラジル、中国、南アフリカ、メキシコ等で増加、ウクライナ、
米国、ロシア等で減少(前月に比べ EU 等で下方修正)
- 2 消費量: 12億 1,817 万トン(対前年度比 0.005%増) ↓…中国等で増加(前月に比べ EU 等で下方修正)
- 3 期末在庫量: 3億 1,017 万トン(対前年度比 0.5%増) ↓…米国等で増加
期末在庫率: 25.5%(対前年度差 0.1ポイント増) ↓

コメ(精米): ベトナムで生産量が下方修正、米国でも長粒種の生産量が引き下げられたことを受け、前月より下方修正されたものの、世界全体の生産量は前年度より増加する見通し。フィリピン、ベトナム、ケニアで消費量が前月より下方修正されたものの、世界全体の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 5億 2,771 万トン(対前年度比 1.4%増) ↓
- 2 消費量: 5億 2,696 万トン(対前年度比 0.7%増) ↓…インド等で増加、中国等で減少
- 3 期末在庫量: 1億 7,743 万トン(対前年度比 0.4%増) ↓
期末在庫率: 33.7%(対前年度差 0.1ポイント減) ↓

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

米国で収穫面積及び単収の増加により生産量が前月より上方修正、ウクライナ、ロシア、インド、ベナンでも政府報告による収穫面積の増加予測に基づき上方修正され、世界の生産量は前年度より増加する見通し。世界の消費量は前年度より増加する見通し。期末在庫量は、生産量が消費量を上回るため、前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 4億 2,873 万トン(対前年度比 8.5%増) ↑…ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加(前月に比べ米国
等で上方修正)
- 2 消費量: 4億 284 万トン(対前年度比 5.2%増) ↑…中国、アルゼンチン、米国等で増加
- 3 期末在庫量: 1億 3,430 万トン(対前年度比 19.5%増) ↑…ブラジル、米国、アルゼンチン、中国等で増加
(前月に比べ中国、米国等で上方修正)
期末在庫率: 33.3%(対前年度差 4.0ポイント増) ↑

世界の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2024年8月12日発表)

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,756.78	2,808.57	2,830.28	0.8%	▲ 6.5	2,299.6
消費量		2,769.80	2,817.10	2,837.05	0.7%	▲ 2.1	2,287.3
期末在庫量		785.24	776.72	769.95	▲ 0.9%	▲ 3.8	481.0
期末在庫率		28.4%	27.6%	27.1%	▲ 0.4	▲ 0.1	21.0%
小麦							
生産量		789.01	789.67	798.28	1.1%	2.1	660.8
消費量		790.59	798.75	804.02	0.7%	4.1	680.3
期末在庫量		271.44	262.36	256.62	▲ 2.2%	▲ 0.6	180.6
期末在庫率		34.3%	32.8%	31.9%	▲ 0.9	▲ 0.2	26.5%
粗粒穀物							
生産量		1,451.74	1,498.48	1,504.29	0.4%	▲ 8.1	1,162.7
消費量		1,459.22	1,494.90	1,506.07	0.7%	▲ 5.9	1,142.1
期末在庫量		334.08	337.67	335.89	▲ 0.5%	▲ 2.5	176.5
期末在庫率		22.9%	22.6%	22.3%	▲ 0.3	▲ 0.1	15.5%
とうもろこし							
生産量		1,159.74	1,223.81	1,219.82	▲ 0.3%	▲ 5.0	903.3
消費量		1,170.66	1,218.11	1,218.17	0.005%	▲ 4.1	880.7
期末在庫量		302.82	308.52	310.17	0.5%	▲ 1.5	145.9
期末在庫率		25.9%	25.3%	25.5%	0.1	▲ 0.03	16.6%
コメ(精米)							
生産量		516.03	520.42	527.71	1.4%	▲ 0.5	476.1
消費量		519.99	523.45	526.96	0.7%	▲ 0.3	464.9
期末在庫量		179.72	176.69	177.43	0.4%	▲ 0.7	123.9
期末在庫率		34.6%	33.8%	33.7%	▲ 0.1	▲ 0.1	26.7%

【大豆】

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		378.50	395.12	428.73	8.5%	6.9	269.0
消費量		366.47	383.05	402.84	5.2%	1.3	265.4
期末在庫量		100.66	112.36	134.30	19.5%	6.5	58.3
期末在庫率		27.5%	29.3%	33.3%	4.0	1.5	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(August 12, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向
(米国農務省2024年8月12日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		406.43	459.13	457.32	▲ 0.4%	▲ 1.9	353.0
消費量		349.89	364.36	366.26	0.5%	▲ 1.0	317.1
輸出量		67.85	85.60	89.14	4.1%	0.6	51.6
期末在庫量		53.60	70.62	79.37	12.4%	▲ 1.7	44.2
期末在庫率		12.8%	15.7%	17.4%	1.7	▲ 0.4	12.0%
小麦							
生産量		44.90	49.31	53.93	9.4%	▲ 0.7	61.3
消費量		30.33	30.23	30.92	2.3%	0.1	37.8
輸出量		20.73	19.24	22.45	16.7%	－	27.5
期末在庫量		15.50	19.11	22.53	17.9%	▲ 0.8	19.5
期末在庫率		30.4%	38.6%	42.2%	3.6	▲ 1.5	29.9%
粗粒穀物							
生産量		356.45	402.89	396.38	▲ 1.6%	▲ 1.1	285.3
消費量		314.97	329.15	330.26	0.3%	▲ 1.1	275.5
輸出量		45.06	63.27	63.48	0.3%	0.6	20.7
期末在庫量		37.14	50.30	55.46	10.3%	▲ 0.9	23.5
期末在庫率		10.3%	12.8%	14.1%	1.3	▲ 0.2	7.9%
とうもろこし							
生産量		346.74	389.69	384.74	▲ 1.3%	1.2	273.2
消費量		305.93	320.44	321.71	0.4%	▲ 0.4	263.0
輸出量		42.22	57.15	58.42	2.2%	1.9	18.5
期末在庫量		34.55	47.42	52.67	11.1%	▲ 0.6	20.9
期末在庫率		9.9%	12.6%	13.9%	1.3	▲ 0.2	7.4%
コメ(精米)							
生産量		5.08	6.93	7.01	1.2%	▲ 0.03	6.3
消費量		4.60	4.99	5.08	1.8%	－	3.8
輸出量		2.05	3.10	3.21	3.5%	－	3.4
期末在庫量		0.96	1.22	1.39	13.9%	▲ 0.1	1.2
期末在庫率		14.4%	15.1%	16.8%	1.7	▲ 0.8	16.1%

【大豆】

項目	年度	2022/23	2023/24 (見込み)	(予想)	2024/25		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		116.22	113.34	124.90	10.2%	4.2	82.8
消費量		63.29	65.42	69.10	5.6%	0.1	48.6
輸出量		53.87	46.27	50.35	8.8%	0.7	36.1
期末在庫量		7.19	9.39	15.25	62.4%	3.4	3.8
期末在庫率		6.1%	8.4%	12.8%	4.4	2.8	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(August 12, 2024)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%)＝期末在庫量×100／(消費量＋輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考 1)

世界の穀物等の価格動向 (2024 年)

● 小 麦 : 5.39 ドル/bu (前年同時期の価格 : 6.33 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2024 年 8 月第 1 週末のセツルメント価格】

(史上最高値 : 14.25 ドル/bu (2022 年 3 月 7 日))

【1 月～3 月】

2 月半ばまでは、米国産に対する低調な輸出需要等から 6 ドル/bu 台前後で上下。2 月半ば以降、米国アウトルックフォーラムで 2024/25 年度の米国産期末在庫量が予想を上回ったこと等を受け一時 5 ドル/bu 台半ばに値を下げたものの、安値感から買い戻され、5 ドル/bu 台後半まで値を戻した。

3 月前半には、黒海地域からの潤沢な供給と米国産に対する低調な輸出需要から 5 ドル/bu 台前半まで値を下げ、3 月半ば以降、ロシアによるウクライナの港への攻撃で黒海の情勢が緊迫化したこと等により 5 ドル/bu 台半ばまで値を上げた。

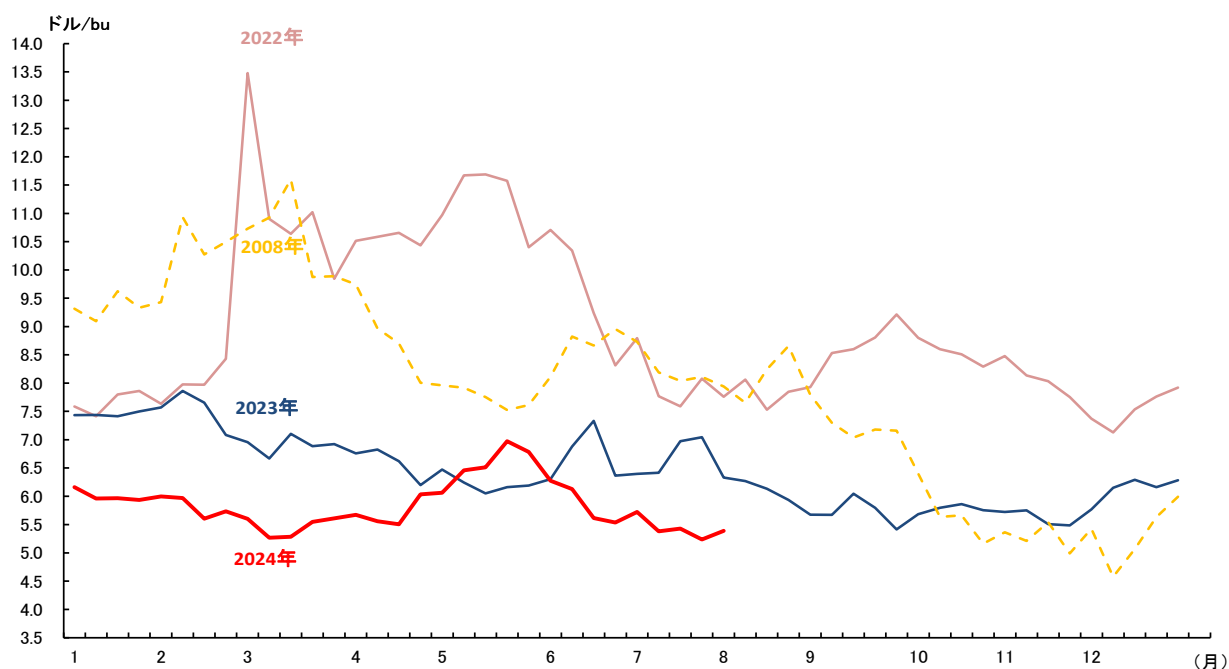
【4 月以降】

4 月に入り、黒海地域の緊迫化による供給不安等から一時値を上げたものの、米国農務省需給報告で米国の期末在庫量が上方修正されたことや主要生産地の降雨予想等から 5 ドル/bu 台半ばまで値を下げた。下旬以降、中東での緊張の高まりや米国及びロシアの乾燥懸念等により値を上げ、5 ドル/bu 台後半で推移。

5 月に入り、ロシアにおける乾燥及び霜害による減産懸念から 6 ドル/bu 台後半まで値を上げた。その後、米国の冬小麦の作柄改善等を受け一時的に値を下げる場面もあったものの、ロシアの減産懸念から、5 月末現在、6 ドル/bu 台後半で推移。

6 月に入り、米国産冬小麦の良好な作柄と順調な収穫等を受けて 6 ドル/bu 台前半まで下落。その後、ロシアにおける乾燥及び霜害による減産懸念等があったものの、米国産冬小麦の収穫進展及びロシア等の供給の改善見込み等により値を下げ、6 月末現在、5 ドル/bu 台半ばで推移。

7 月に入り、輸出成約高が市場予想を上回ったこと等を受けて 5 ドル/bu 台後半近くまで値を上げたものの、米国農務省需給報告で豊作に伴い米国の期末在庫量が上方修正されたことや北半球における収穫進展等を受けて 5 ドル/bu 台前半まで値を下げた。その後、EU 等の減産懸念から一時的に値を上げたものの、米国産春小麦の良好な生産見通し等を受けて値を下げ、7 月末現在、5 ドル/bu 台前半で推移。



注: シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● とうもろこし：3.87 ドル/bu（前年同時期の価格：4.84 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年8月第1週末のセトルメント価格】

（史上最高値：8.31ドル/bu(2012年8月21日)）

【1月～3月】

1月に入り、南米の降雨予想や米国の低調な週間輸出成約高から4ドル/bu台半ばまで下落。

2月下旬には、米国農務省需給報告及び米国アウトルックフォーラムで米国産期末在庫量が市場予想を上回ったこと、南米の生産見通しの改善から4ドル/bu割れまで値を下げたものの、2月末にかけ、米国産の週間輸出検証高が予想を上回ったことや安値感からの買戻しにより4ドル/bu台前半まで値を上げた。

3月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出やアルゼンチンの降雨過多等による作柄懸念を受け4ドル/bu台半ばまで値を上げた。その後、一時4ドル/bu台前半に値を下げたものの、米国農務省が発表した作付意向面積報告が市場の事前予想を下回ったため4ドル/bu台半ばまで値を上げた。

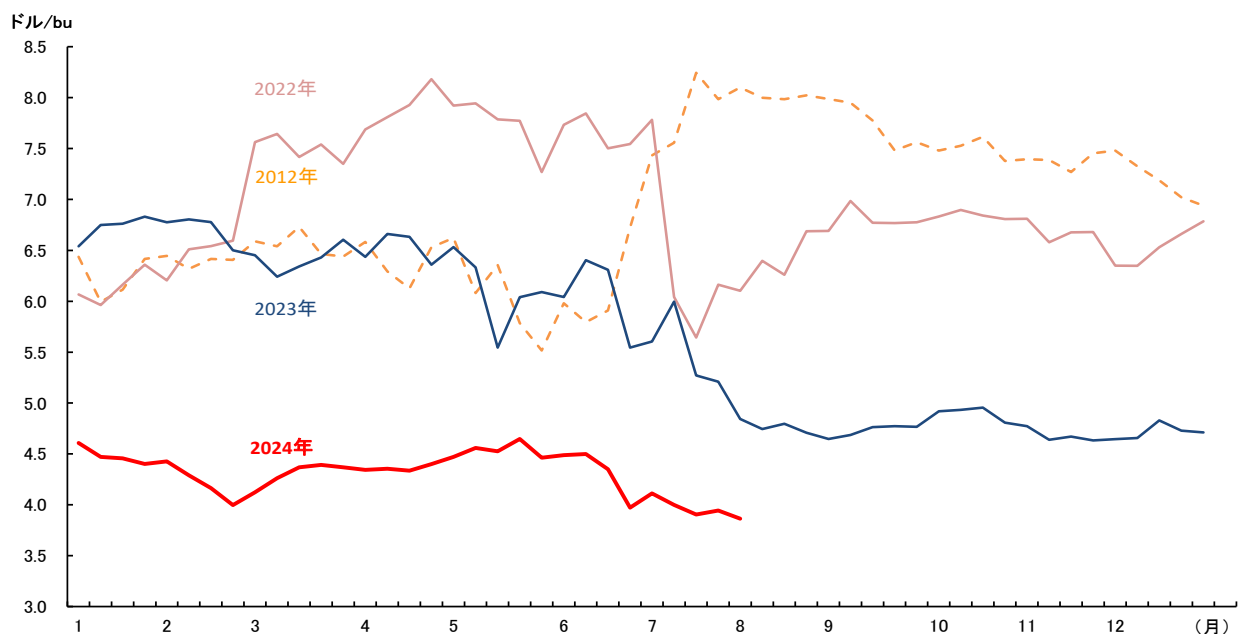
【4月以降】

4月に入り、米国中西部での生産に適した天候が今春の作付け拡大につながるとの見通しから4ドル/bu台前半まで値を下げた。その後、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇等により値を上げ、4ドル/bu台半ばで推移。

5月に入り、米国中西部での作付け遅延及びブラジル南部での洪水被害を受けて、4ドル/bu台半ばまで上昇。その後、米国農務省の穀物需給報告での期末在庫量が市場予想を下回ったことを受けて4ドル/bu台後半近くまで値を上げたものの、米国の順調な作付け進捗等を受けて値を下げ、5月末現在、4ドル/bu台半ばで推移。

6月に入り、米国中西部での順調な作柄進捗及び良好な作柄報告を受けて4ドル/ブッシェル前半近くまで値を下げたものの、中旬、米国中西部における高温による作柄懸念等を受け4ドル/ブッシェル半ばまで値を上げた。その後、米国中西部における降雨予報及び米国の作付面積予測が市場予想を大きく上回ったこと等を受けて値を下げ、6月末現在、3ドル/bu台後半で推移。

7月に入り、米国中西部の高温予報を受けた作柄懸念等から4ドル/ブッシェル台前半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報や低調な週間輸出成約高等を受けて3ドル/bu台後半まで値を下げた。その後、米国中西部での高温予報や週間輸出成約高が市場予想を上回ったこと等から4ドル/ブッシェル台前半まで上昇したものの、米国中西部の降雨予報や良好な作柄を受けて値を下げ、7月末現在、3ドル/bu台後半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セトルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

● コメ：607 ドル/トン（前年同時期の価格：587 ドル/トン）

【価格は、2023 年 8 月第 1 水曜日の価格が公表されていないため、タイ国家貿易取引委員会における 2024 年 7 月最終水曜日の FOB 価格】

（史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)）

【1 月～3 月】

1 月に入り、インドネシアの追加輸入や旧正月、ラマダーン（断食月）などを控えた ASEAN 諸国からの需要増加等から値を上げ、一時 680 ドル/トン台前半まで上昇したものの、2 月に入り、旧正月でアジアの市場が停滞したことや、2 月上旬のインドネシア政府の入札が成立しなかったこと、2 月末から 3 月初めの新穀（乾季米）の入荷待ちによる需要の軟化等から、一時的に 620 ドル/トン台に値を下げた。

3 月に入り、インドネシア政府の入札が 4 日に成立したことや、3 月末にインドネシア政府が再び入札を行う可能性があるとの市場の予測等から値を上げ、一時 640 ドル/トン台半ばまで値を上げたものの、3 月下旬には、新穀の市場への流入継続等から 610 ドル/トン台半ばまで値を下げた。

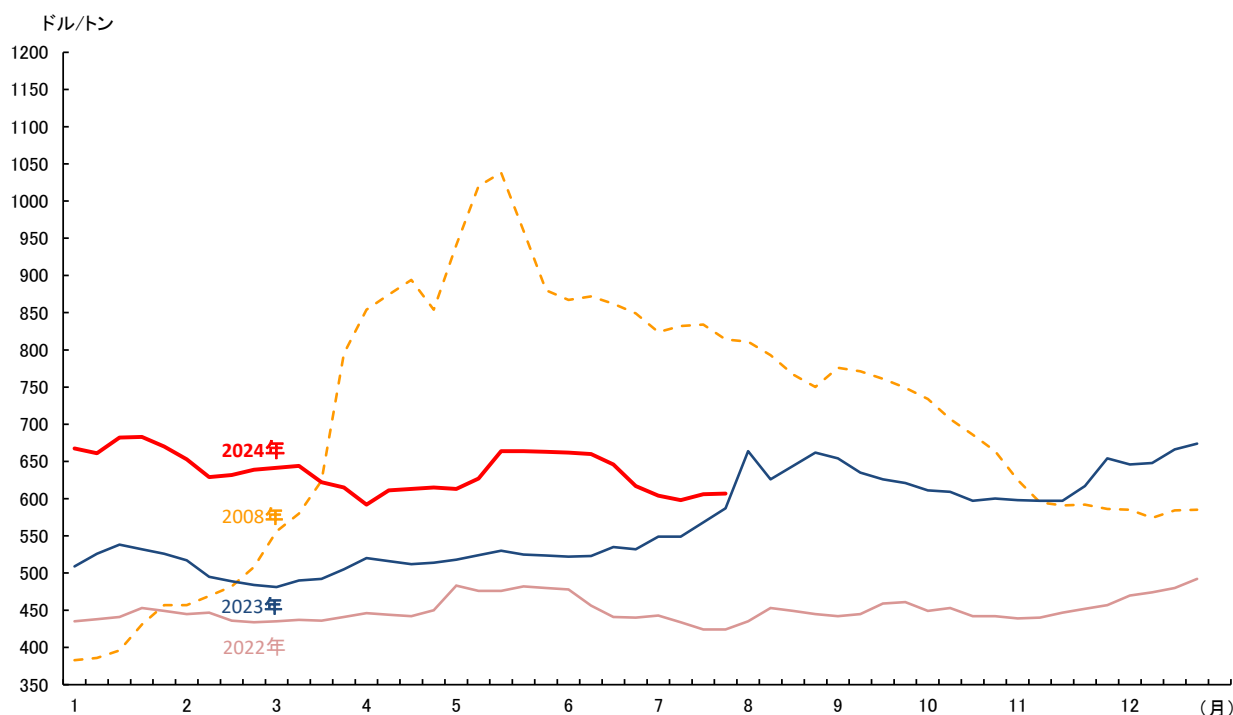
【4 月以降】

4 月に入り、乾季米の市場への流入が続いていることから、一時 590 ドル/トン台前半まで値を下げたものの、インドネシア政府が 30 万トンの入札を公示し、そのうち 11 万トンをタイから 5 月末までに輸入すること等から値を上げ、4 月下旬現在、610 ドル/トン台前半で推移。

5 月に入り、乾季米の収穫が終盤を迎えており、市場への流入が減速しているものの、5 月末までにインドネシアがタイから 11 万トンを入力すること等から値を上げ、5 月下旬現在、660 ドル/トン台半ばで推移。

6 月に入り、タイ産米の価格がベトナム産米に比べ価格優位性が低いこと等による需要の軟化や国内価格の下落等から値を下げ、6 月下旬現在、610 ドル/トン台後半で推移。

7 月に入り、インドの輸出規制に下支えされながらも、新穀の出回りによるタイ国内価格の低下等から 590 ドル/トン台後半まで値を下げたものの、インドネシア向けの入札などを控え値を上げ、7 月末現在、610 ドル/トン付近で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、コメ価格が史上最高値を記録した2008年と直近3年の価格推移。

● 大 豆：10.29 ドル/bu（前年同時期の価格：14.44 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における2024年8月第1週末のセトルメント価格】

（史上最高値：17.71 ドル/bu(2012年9月4日)）

【1月～3月】

1月に入り、ブラジルでの降雨等を受け12ドル/bu台前半までに値を下げた。その後、原油高に連動する形で12ドル/bu台半ばに値を上げたものの、1月の米国農務省需給報告で米国産の生産量が上方修正されたことや、アルゼンチンの増産見通し、ブラジルの降雨等から1月末にかけ12ドル/bu台前半まで値を下げた。

2月半ばにかけ、米国の週間輸出成約高や南米の高温乾燥や降雨予報を受け、11ドル/bu台後半から12ドル/bu前後で推移。2月末にかけ、米国アウトLOOKフォーラムで米国産の生産量、期末在庫量が市場予想を上回ったことや、南米産の収穫の進展及び生産見通しの改善から11ドル/bu台前半まで値を下げた。

3月下旬にかけ、米国産の堅調な輸出需要やブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から12ドル/bu台前半まで値を上げた。その後、米国農務省が発表した作付意向面積や四半期在庫が前年より増加したことから11ドル/bu台後半まで値を下げた。

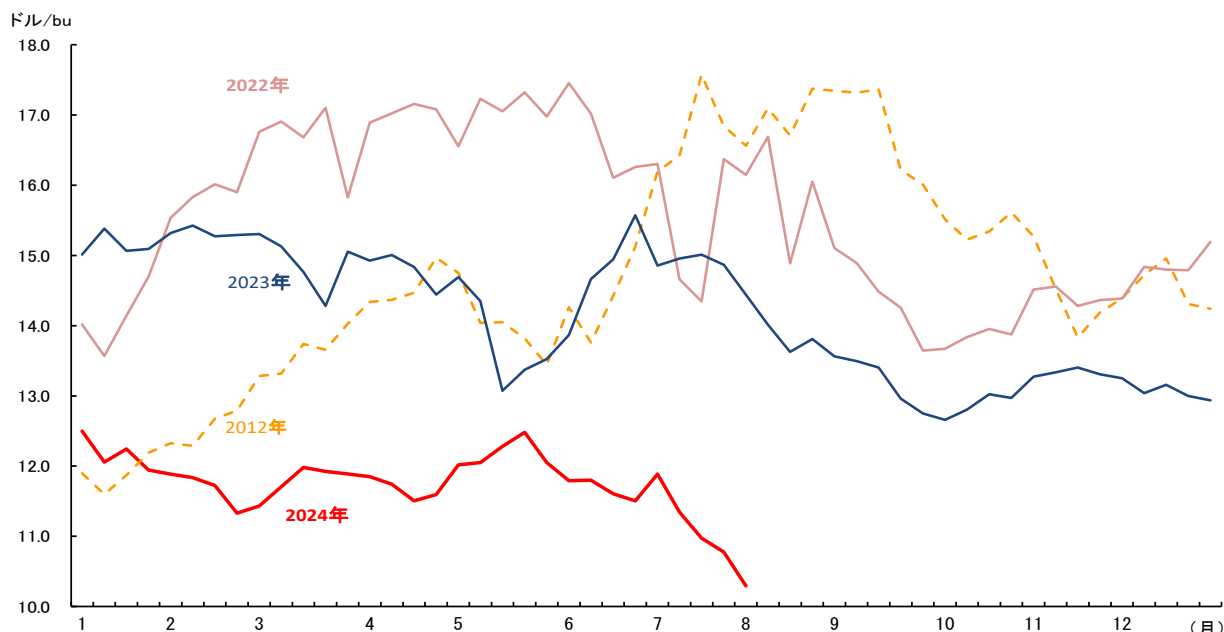
【4月以降】

4月に入り、南米産の供給増を受けた相対的な米国産の価格競争力の低下による米国の輸出需要の鈍化等から11ドル/bu台前半まで値を下げた。下旬以降、中東での緊張の高まりを受けた原油価格の上昇等により値を上げ、11ドル/bu台半ばで推移。

5月に入り、ブラジル南部での洪水被害を受けた供給減少の懸念等から12ドル/bu台半ばまで上昇したものの、米国での順調な作付進捗等を受けて下落に転じ、5月末現在、12ドル/bu台前半で推移。

6月に入り、米国産の順調な作付進捗及び原油安等を受けて11ドル/bu台後半まで下落。その後、ブラジルの生産見通しの下方修正等から12ドル/トン台まで上昇したものの、米国産の順調な作付進捗及び米国の作付面積予測が市場予想を上回ったこと等を受けて値を下げ、6月末現在、11ドル/bu台半ばで推移。

7月に入り、米国中西部の高温予報を受けた作柄懸念等から11ドル/bu台後半まで値を上げたものの、米国中西部の降雨予報や米国産の作柄改善等を受けて10ドル/bu台後半まで値を下げた。その後、値ごろ感から買いが入り11ドル/bu台前半まで上昇したものの、米国中西部の降雨予報や良好な作柄を受けて値を下げ、7月末現在、10ドル/bu台前半で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週末の期近価格（セトルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.40
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
108.99	106.73	109.89	131.57	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	141.21
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
144.77	147.67	149.53	149.83	144.07	146.57	149.42	149.63	153.43	156.13	157.82
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
158.06										

出典： 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
45.01	38.28	65.79	60.71	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	42.73
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
49.49	52.48	51.30	52.75	56.27	51.39	50.39	54.74	53.56	54.31	53.28
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
53.50										

出典： 米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

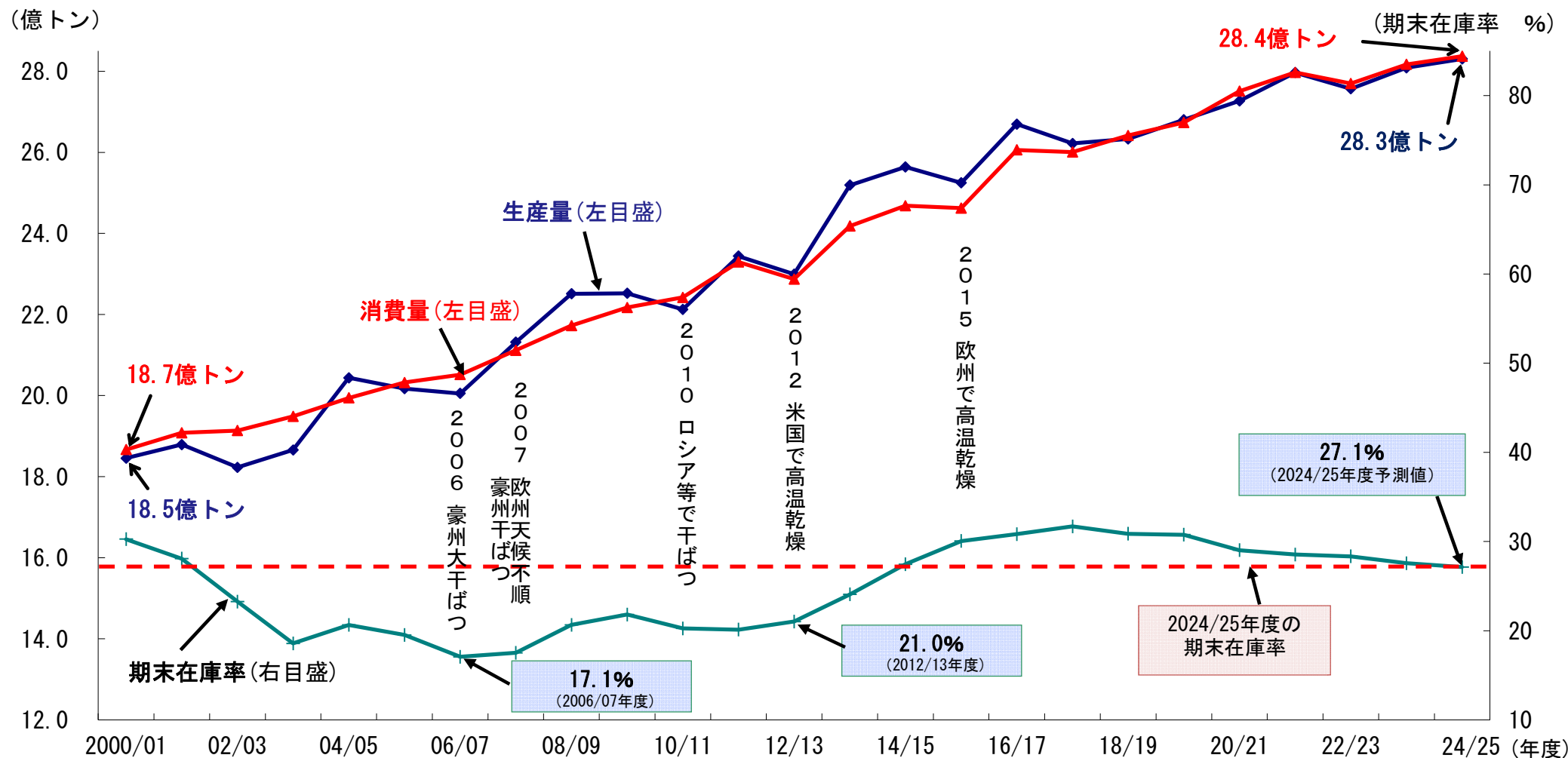
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	92.91	48.76	43.47	50.85	64.90
2019年	2020年	2021年	2022年	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
57.04	39.34	68.08	94.33	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.27	76.03
8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
81.32	89.43	85.47	77.38	72.12	73.86	76.61	80.41	84.39	78.62	78.70
7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月
81.80										

出典： 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」令和6年7月, 116頁
但し、2024年7月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値。

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2024/25年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2024/25年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、27.1%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(August 2024)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。